
緋色の月を愛でる夜は ~ ポエニクスの涙を探す ~

二上 ヨシ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

緋色の月を愛でる夜は　　くポエニクスの涙を探すく

【Nコード】

N0853BA

【作者名】

二上 ヨシ

【あらすじ】

半人族と呼ばれる人間と魔族の両親を持つ、二級医術師のルナ。半人族がゆえに昇級試験を受けられない彼女は、実績を得て状況を打破するため、原因不明の病に冒されているという帝国の第三皇子の治療を引き受けることに。しかし第三皇子のそれはただの病ではなく、内部の誰かによって掛けられた「呪い」であった。

各立場の様々な思惑が交錯し、第三皇子にファーストキスを奪われ、チャイナ男に奴隷宣告され、護衛官に目をつけられながら、謎の究明と治療に奮闘する。

序章

「さあて、さてさてお立合い。お急ぎのあなたもそうでない方も、寄つてらっしゃい見てらっしゃい！」

レンガ造りの建物に周囲を囲まれた広場は、いつものように夕食の食材を求める人々で溢れかえっていた。あちらこちらで呼び込みの声や、走り回る子供を咎める怒号が飛び交う。

「こちらにあるのがそう、かのポエニクスの涙。偽物なんかじゃありません、真正正銘の本物！」

軽快な口上で、頭に角の生えた男が液体の入った小瓶を高々と空に上げる。男の呼び込み文句に惹かれるように、次々と人々は足を止めた。半信半疑ながらも、男の手の中の小瓶へ、どこか憧れの眼差しを送った。

「そうこのポエニクスの涙、魔界伝説にある通りに一滴口に含めば、あれよあれよという間に永遠の力と命を手に行き届いていうじゃありませんか！ 銀輪の医師師から極秘に入手したものが流れに流れて皆様の元へやって参りました。本当なら値はつけられねえところ、今日は特別価格、赤字覚悟の一万五千ボンドで売っちゃうよ！ さあ買った買った！」

「聞いたかポエニクスの涙だってよ」

「どうせ偽物だぜ」

「俺、一つ買ってみよつと！」

「おい、待て、俺も！」

「私も！」

小瓶は飛ぶように売れていく。アルベディー又連合帝国に住まう庶民たちに、よく見られる光景であった。

魔界の中心と言われるセントラルシティーの中央に、小山と見紛うほどに高く、周囲を睥睨^{へいげい}して聳^{そび}え立つ城があった。

裾野に広がる町を見下ろすその巨城の一室は、町の市場とは対照的に肅然としていた。神妙な面持ちで大理石のテーブルを囲む十三名の誰もが、時を感じさせる眉間に、ますます深いしわを刻む。

「まだか……まだこの連合帝国第三皇子の病名が分からぬのか」

髑髏族出身の元老院議長は、己の長い白髯はくぜんを撫でながらゆつくりと着座する議員の面々を一望する。しかし、亡者族の口煩い老人も、豪勇の士と言われた獅頭族しずの元英雄も、魔神族の博識高い尊老も、誰もが意見を求められるのを拒むんでそっぽ向く。

何たることだ、と議長はため息を漏らした。

このメンバーは隣国との大戦の渦中であろつと、国家を二分しかねない内紛の瀬戸際であろつと、史上最大の飢饉の真つ只中であろつと、血気盛んな猛牛の如く高見を噴出させ、勇躍ゆうやくとして働いた優秀な国の頭脳である。それが、この問題に関しては、まるで臆病な羊の如く大人しく収まっているのだ。

この元老院を二世紀に渡つて纏め上げてきた議長も、すでに期待するのを半ば諦めていた。

今日だけでもかれこれ二時間は話し合っているが、結局行きつく先は『どこかに良い医者はいないのか』で、それより先が見つかる気配すらなかったのだ。

「最近、余命のことに気付かれた三の皇子のご乱心ぶりは目に余る」
「このままでは、皇帝閣下のお怒りが我々元老院に向かうのも、そう遠い日の話ではない」

「そうなれば全員牢獄行きだぞ」

「しかし何人の有名な医師師を呼んだと思っている。その全てが匙を投げたではないか」

「ならばせめてどこかの姫と結婚していただき、御子だけでも授かれば閣下も……」

新しい意見の登場に、皆一瞬ハツとしたように面を上げる。だがすぐさま、

「いやいや、中々良い視点だがそれもダメだ。三の皇子は元より女

を対等な話し相手として見ておいではない。従前より女を蛇蝎だかつの如く嫌い、隣国の姫とすら口を聞こうともなさらない有様ではないか。無理に成婚いただいても、御子が授かる望みは薄い」

広間は元老議員たちのため息で満たされ、大きな混沌が渦巻く。議長が行き場のない指を、美髯びぜんを撫でて遊ばせた。

「三の皇子の結婚相手に相応しい家柄の、医術師の資格を持つ令嬢さえいれば方法はあるのだが……」

議長らには何かしらの腹案があるようであった。しかしその為の条件が高すぎる。

「ならば、今日のところはこれにて……」

最近お決まりになった幕引きの文言を口にしかけたその時、乾いたノック音が鳴り響いた。

「お伝えします、元老院様宛の伝言を受領いたしました」扉越しにくぐもった声。

「そんなものは後でよい！」

「いえ、ですが……医術師の資格を持つ名家の令嬢を紹介したいとのこと」

元老院議員たちは一人残らず、年を忘れて跳ねるように立ち上がった。

序章（後書き）

誤字脱字等ございましたら、ご報告お願いいたします！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0853ba/>

緋色の月を愛でる夜は ～ポエニクスの涙を探す～

2012年1月1日23時48分発行